令和元年９月２５日

# 高井戸第二小学校　高学年分科会提案資料

研究主題

## 主体的・協働的に学ぶ授業を通して，思いや考えを深める児童の育成

児童の実態

〇本学級は５年生からの持ち上がりであり，５年生の頃から様々な教科・領域の学習の中で話し合い活動が日常化している。

〇話し合い活動をする中で，積極的に話す児童（聞くことが苦手）と聞き役に徹している児童（話すことが苦手）とに分かれる傾向がある。

〇話し合い活動自体は行っているが，話すこと・聞くことの両方の力をバランスよく高めていくことや，友達の意見を基に考えを広げたり深めたりすることに課題が残っている。

児童に付けたい力（指導事項）

◎話すこと・聞くこと

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること（オ）

◎書くこと

筋道の通った文章になるように，文章全体の構成や展開を考えること。（イ）

◎言葉の特徴や使い方に関する事項

話し言葉と書き言葉のちがいに気付くこと。（イ）

思考力・判断力・表現力　話す・聞く　知識技能

分科会テーマ（目指す児童像）

自分の意見をもち，他人の意見と考えを関係付け，考えを見つめ直す児童の育成

テーマに迫るために（年間を通じて意識的に取り組む手立て）　※本単元についての手立ては後述する。

・各単元で指導事項を明確化し，その項目を重点的に指導する。また指導事項にふさわしい言語活動を，単元を貫いて位置づけることで，目的をもって話すこと・聞くことの活動に取り組ませている。

| | 教 材 名 | 指導重点事項 | 言語活動 |
|---|---|---|---|
| 4月 | つないでつないで一つのお話 | 話し手の意図を捉えながら聞かせる。 | グループでリレー形式によるお話創作活動を行う。 |
| 5月 | 学級討論会をしよう | 一つの問題を肯定・否定の両面から検討し，より多くの人を納得させるための話合いを計画的に進めさせる。 | 主張→尋問→結論という流れを基本とする反駁型ディベート形式の討論を行う。 |
| 6月 | ようこそ，私たちの町へ | 相手が誰であるかを把握し，何を目的としているのかを常に意識させる。その上で情報を取捨選択させ，文章を練らせる | 事物の良さを人に薦めるために，複数の情報内容を編集する活動を行う。 |
| 9月 | 未来がよりよくあるために | 考えを構築するために「聞き合う」活動では，グループで一つにまとめるのではなく，個がそれぞれ自分の考えを深めさせていく。そのために，互いの意見を理解し，助言し合うことを求めていく。 | 互いの立場や意図をはっきりとさせながら，話し合う。「意見文を書くために考えを深める」ことが目的のため，それぞれの立場を意識しながら，話し合う必然を伴わせる。 |

| | 教 材 名 | 指導重点事項 | 言語活動 |
|---|---|---|---|
| 11月 | この絵，私はこう見る | 様々な観点をよりどころとしながら，分析的に絵画と向き合い，事実として絵画のどの点に何を感じ，どのように意味づけたのかということに意識的にさせること。 | 芸術的絵画に触発される様々な自分なりの感じ方やものの見方を大切にし，それを一定の全体的理解にまとめあげ，相互に伝え合う。 |
| 2月 | 今，私は，ぼくは | 小学校生活を振り返って思うことを，効果的な資料を提示しながら，相手や場面に応じた構成と適切な言葉遣いで説明・報告させる。 | 話し方を工夫し，効果的に資料を示して，スピーチを作り上げること。 |

日常活動の取組として

〇ミニ単元

・無人島ＳＯＳ・話の聞き方うめラいス（話し合いに必要なスキル）・しりとりの法則

・要約ゲーム・言葉のキャッチボール　など

〇対話ルーレット（グループでの話し合いの際に，役割を示したルーレットを用いる。）

# 第６学年　国語科学習指導案

日時　令和元年９月２５日(水)第５校時
対象　第６学年２組　３２名
授業者　田沢　崇史

## １　単元名

「高二がよりよくあるために」

## ２　単元の目標

・話し言葉と書き言葉の違いに気づき，意見文を書くことができる。（知識・技能）
・互いの立場や考えをはっきりさせ，話し合うことを通して，自分の考えを広げたりまとめたりすることができる。（思考・表現・判断）
・高二小に感謝の気持ちを表すために，どのようなことをすればよいのか，友達の意見を聞いて，自分の考えをもち，話し合いをしたり，意見文を書こうとしたりしている。（主体的に学習に取り組む態度）

## ３　単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

| | ア　知識・技能 | イ　思考・判断・表現 | ウ　主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 単元の評価規準 | ○話し合いに関わる語句の量を増し，話し合いの中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成について理解し，語彙を豊かにしている。<br>○話し言葉と書き言葉の違いに気を付けながら意見文を書いている。 | ○目的や意図に応じて，学校への感謝の気持ちを表すための材料を集めている。<br>○集めた材料を関係付けて（まとめる，結び付ける）話し合っている。<br>○話し合うことを通して，考えを広げたりまとめたりしている。 | ○学校への感謝の気持ちを表すためにどうすればいいのか，友達の考えも聞いて考え，自分の考えをもち，意見文を書いたり話し合いをしたりすることに意欲をもっている。 |
| 学習活動に即した具体的な評価規準 | ①話し合いの中で，「質問をするときに，よく使う言い方」を適切に使っている。<br>②話し合いを通して決まった，学校への感謝の気持ちの表し方について，書き言葉を適切に使って意見文を書いている。 | ①学校への感謝の気持ちを表すために，学校の状況や，６年生と在校生の願い，過去の卒業生の活動内容等，考えるための材料を集めている。<br>②自分の意見とその理由を明確に述べるとともに，友達の発表に対して，質問や助言を入れ話し合っている。<br>③話し手の意図を捉えながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめ，話し合っている。 | ①これまでの話し合い方を振り返り課題を設定したり，学校への感謝の気持ちの表し方について話し合って提案するということに関心をもったりしている。 |

## ４　単元構想

（1）　児童について（児童観）

本学級は５年生からの持ち上がりである。５年生の頃から，国語の学習に限らず，様々な教科・領域で話し合いを意図的に授業に取り入れて活動してきた。学習の中で意見を話したり，聞いたりすることは日常的な活動となっており，５月に実施した杉並区の特定課題調査のアンケートでは「授業中，ペアやグループで活動したり話し合ったりする時間が多くある」の設問で 97.0%の児童が肯定的な回答を行った。

一方で，同アンケートの「話し合いの中で違う意見や考えが出たとき，みんなが納得できるように意見や考えをまとめることができる」の設問では，肯定的な回答をした児童は 63.6%に留まっている。また，普段の話し合い活動の中でも，積極的に話す児童（聞くことが苦手）と聞き役に徹している児童（話すことが苦手）とに分かれる傾向が見てとれる。全体としては，積極的に話す児童は９名ほどで，聞き役に徹する児童のほうが多い。

上記のことから，話し合い活動自体は行っていても，話すこと・聞くことの両方の力をバランスよく高めていくことや，友達の意見を基に考えを広げたり深めたりしていくことに課題が残っていると考えられる。

（2）　話題について（学習材観）

教科書では，現在の社会や自然環境、身の回りについて「どんな未来にしていきたいのか」という問題意識を持たせて話し合いをする活動が設定されている。しかし，現在の社会や自然環境などの幅広いテーマ設定よりも，身近な学校生活に着目させ学習に取り組むことで，児童がより主体的に学ぶことができると考えた。

最高学年となって約４か月が経ち，１年生のサポートや委員会やクラブ活動，たてわり活動などで下学年を引っ張る立場と頑張る姿が見られた。しかし，その姿が持続しないことが課題である。行事の時だけ頑張るのではなく，日常的に最高学年としての意識をよりもってほしいという願いから，全員が関わる「卒業」を意識した話題設定にした。昨年度，在校生代表として参加している卒業式は児童にとって身近な学校行事であるため，より主体的に話し合うことができると考える。また，この時期に話し合うことで，卒業への意識を高めることができると考えた。具体的には例年行っている奉仕活動について話し合うことにした。「毎年活動しているから行う」のではなく，自分たちで計画を立て，実行するという目的意識をもつことで，小学校生活の締めくくりを主体的に取り組むことができ，話し合う必要性が生まれると考えた。

（3）単元について(単元観)

単元の第１時で、「展覧会で６年生として何ができるか」について話し合っていく。高二小の最高学年として、なにができるか、実現性の高い話題で話し合うことで、話し合いのスキルを学ぶ。

また，５年生の学習で「明日をつくるわたしたち」で提案書を作成し，読み手を説得する文章を書く経験をしている。話し合い活動を通して，自分の考えがどのように変化したのか，どのように確固たるものになったのかを取り入れ意見文を作成できるようにしたい。

本単元を通して，卒業に向けて自分たちに何ができるかを具体的に考え実行できる話題設定にすることにより，より良い話し合い活動と奉仕活動への意欲を高めていくことができると考える。

## ５　研究主題に迫るために

柱１　単元計画の工夫

○単元のゴールと学習の目的を明確にする

二学期に入り，児童は卒業までの見通しをもつ時期になってきた。卒業に向けて今までの生活を振り返り，「感謝の気持ちを誰にどのように伝えるか」を考え，意見文を書き，実際にそれを実行するという見通しをもたせる。明確な目的をもたせることで向上心をもって学習に取り組み，自分の意見をもつようになると考える。

柱２　話せる・聞けるようになるための工夫

○高二タイムの活用

１５分間の高二タイムを活用して，話す聞くのスキルアップを図っている。その日によってテーマを変え，グループで話し合い活動を行い，良い話し方，良い聞き方を全体で取り上げ，共有することで価値付けを行う。それを繰り返すことで，話す聞く力が付いていくと考る。

○「吹き出しＭＡＸ!!」で良い話し方・聞き方を価値づける

国語科の学習に限らず，話し合いの中での良い言葉がけや聞き方を全体で共有し，それをボードに貼りため，常時掲示しておく。話し合いを始める前やうまくいかないときに「吹き出しＭＡＸ!!」の掲示が児童にとっての拠り所になり，話し合いを進める手助けになると考える。

○グルーピングの工夫

話し合うためのグループをランダムに設定するのではなく、教師が意図的にグループを設定する。本単元では、考えが違う児童を同じグループにすることで、違う考えの友達に対して活発に質問ができるようになり、意見文に向けて有意義な話し合いができると考える。

## ６　単元計画（全９時間扱い）

| 過程(次) | 時 | 学習活動 | 指導事項 | ◆評価規準　★評価方法 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 1 | ○展覧会で「６年生として全校にできることは何か」について話し合う。 | ・グループでの話し合いの深め方を知る。 | |
| 1 | 2 | ○学習課題を設定し，学習計画を立てる。 | ・「いつも気をつけよう」を確かめながら，学習の見通しをもたせる。 | ◆自分なりの考えをもち，意見文を書いたり，スピーチをしたりすることに意欲をもっている。【関】<br>★発言・ノート |
| 2 | 3 | ○「感謝の気持ちを伝えよう」を考え，書き出す。 | ・これまでの学校生活を思い出させ，大切にしていきたいことを考えさせる。 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 4 | ○書き出した考えの根拠となる情報を，書籍やインターネットから調べる。調べた内容や考えを交流する。 | ・メディア別に利点と欠点を理解させたうえで，情報収集の手段を選ばせる。 | ◆情報収集の方法を知り，自分の意見を支えるの効果的な資料を選択している。【書】<br>★ノート |
| | 5<br>本<br>時 | ○グループで自分の意見とその理由を発表し合い，考えを深める。 | ・参考になった質問や意見を付箋にメモさせる。 | ◆自分の意見とその理由を明確に述べるとともに，友達の発表に対して，質問や助言を入れ話し合っている。【話・聞】<br>★話し合い |
| 3 | 6 | ○P.97「意見文の構成表の例」を参考にし，意見文を書く準備をする。 | ・付箋を活用し，構成表に整理して，意見文の組み立てを考えさせる。 | ◆自分と異なる意見を取り入れながら，構成を工夫して書いている。【書】<br>★意見文 |
| | 7 | ○P.98 の意見文から説得力をもたせる工夫について学ぶ。 | ・意見文の例を読み，説得力のある表現のしかたについて，話し合いを行う。 | ◆調べたことを活用し，注や引用などを用いて意見が説得力をもつように書いている。【書】<br>★意見文 |
| | 8 | ○意見文を書く。 | ・「初め」「中」「終わり」の構成で意見文を書かせる。 | ◆書き言葉と話し言葉の違いに注意しながら意見文を書いている。【言】<br>★意見文 |
| | 9 | ○意見文をグループで読み合い，深められた考えや書き方の工夫について伝え合う。 | ・意見文を読む観点を与え，互いに評価させる。 | |

## ７　本時の学習

(１)本時のねらい

友達の意見と自分の意見を比べながら聞き合い，考えを深めることができる。

(２)本時の展開（5／9 時）

| 学習活動<br>（どんな活動をするのか） | ○指導上の留意点 | ◆評価規準　★評価方法 |
|---|---|---|
| １．前時の学習を振り返り，質問や助言の仕方を確認する。 | ○話し合いの前提となる，意見文を書くための自分の意見や根拠などを確認する。<br>○話し方については，前時の学習で考えたものに限らず，高二タイムで取り組んできた話合いの仕方やポイントも想起させる。 | |
| ２．めあてを確認する。<br>友達と意見を発表し合い，質問や助言をして考えを深めよう。 | | |
| ３．友達の意見の発表を聞き，質問や助言をし合って意見文の内容を深める。 | ○友達からの質問や助言，良い意見はふせんにメモをする。<br>○集団で意見を深めて思考を高める場であり，反論して意見を戦わせる場ではないことを確認する。<br>○話し合いのグループは，活動が活発に進むよう，意見文のテーマや話し合い活動への積極性などを基に，教師がメンバーを決定する。<br>○うまく言葉が出ない児童には教室に掲示している「吹き出し MAX!!」の言葉を参考にするよう促す。<br>○話し合いが止まっているグループには，教科書 P97 に記載のある「根拠となる出来事」，「予想される反論とそれに対する意見」といった話し合いの観点を提示して支援する。 | ◆【話・聞】自分の意見とその理由を明確に述べるとともに，友達の発表に対して，質問や助言を入れ話し合っている。<br>★話し合いの様子・発言・ノート（メモ） |
| ４．感想を書き，学習を振り返る。 | ○感じたことや考えたことを書くのではなく，友達との話し合いを通して考え直したことや，新しくもつことのできた意見などを書くようにする。 | ◆【話・聞】友達の意見と自分の意見を比べながら聞き合い，考えを深めている。<br>★ノート（メモ） |